

みんなの夢の創造と実現のために……

星のゆめ

下松市観光協会
会報

VOL.21

編集・発行／下松市観光協会 発行責任者／弘中佑児 Phone 0833-45-1841 URL/http://kankou.kudamatsu.info



★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ くだまつ観光・産業交流センター 「スターナビくだまつ」 オープン

今年の冬のボーナスが、この不況の影響で近年では最低の数字になるようで、なんともさみしい限りです。こんな時は、一攫千金で年末ジャンボ宝くじに夢をかけたいものですが、そんなに甘いものではありません。宝くじは普通くじ、ジャンボくじに限らず全て一ユニット百組で構成され、一組が十万枚発売されます。したがって一ユニットでは一千万枚という事になります。しかしどんなに高額賞金にしても理屈は商店街の福引きといっしょで、一組の中で一等から末等、そしてそのほとんどがはずれとなるのはわかっていますが、もしやにかけて買い求めていくのが現状です。一枚三百円として一ユニット一千万枚の代金は三十億円です。大都市ではいざしらず、地方ではこれだけ販売できませんので、一ユニットがいくつかに分解され届けられます。中国地方では、統計上島根県が販売数に反して一などが良く出ているそうです。だれでもお金は欲しいものですが、夢ばかり追いかけてもしかたありません。悪ければ悪いなりに幸せの基準を少しさげて、ささいな事や小さな喜びを大切にする契機にされてはいかがでしょうか。



スターナビくだまつ

「くだまつ観光・産業交流センター」

～つながりを生かし、市内の観光・産業の情報発信基地に～

オープン



職員一同力を合わせてがんばっています。ぜひお気軽にお立ち寄りくださいませ。

④情報発信：館内の展示やテレビで情報を発信するだけでなく、ホームページや情報誌を定期的に発行し、下松を幅広くPRしています。

③イベント企画：毎週、土曜・日曜日には、下松のよさを再発見できるような独自のイベントを開催しています。これまで、下松の「人」「もの」「こと」を扱った内容や物知り検定等を取り扱ってきました。

②特産品・観光資源開発：市の七十周年に合わせて、市内工場のご協力により「下松ものづくり博物館」の開催、地域産業と連携した「特産品販売」等を行ってきました。今後は、特産品開発も視野に入れていきます。

①観光コーディネート：市内観光の最新情報の提供や相談に対するアドバイスを行います。現在では、市の観光ボランティア設立委員会の事務局機能を受け、共に勉強しているところです。

本年七月、ザ・モール周南星プラザ三階に、くだまつ観光・産業交流センター「スターナビくだまつ」がオープンしました。下松市や観光協会、下松商工会議所、市内の工場や特産品業者等、たくさんの方々に協力いただき、これまで様々な活動を進めております。その一つが「下松ふるさと大使」。このたび、市制施行七十周年記念式典において、大使三名・準大使三名が広く皆様方に紹介されたところです。今後とも、市内諸行事等で、下松市をPRすべく、活躍されるものと思っています。なお、平素は本センターにおいて、主に四つの業務を行っています。



下松市農業公園

オープン

現在わが国の農業は、食料自給率の低迷、農家の高齢化や担い手の不足等による耕作放棄地の増加等、厳しさを増してきています。また一方で、農業に対する消費者の関心は高まっており、地元で採れた新鮮な農作物を地元で消費する「地産地消」や農産物直売所の人気（ブーム）等、安心安全な食料の提供等が求められているところです。

このような中、下松市においても、農業を通じて土に親しみ、植物の生育と土との関係、自然の仕組みや食料の大切さについて理解を求めめる機会を提供するため、食育活動や自然体験の拠点として「下松市農業公園」を整備しました。本市来巻地区の約一・六ヘクタールの耕作放棄地に水田や畑、炭焼き場等を整備し、市民のみならずの農業体験型交流施設として、十一月十四日にオープン式典を行い開園されました。



【問合わせ先】
下松市農林水産課
☎ 0833(45)1844
下松市農業体験型
交流施設管理委員会
☎ 0833(46)0069



年間行事

平成21年度

笠戸島イカダまつり
はなぐり海水浴場

8/30



風鎮踊り
妙見宮瀨頭寺

8/30



切戸川桜桜フェスタ
下松市役所グリーンプラザ

4/5



ひらめ等魚介類供養祭
はなぐり中間緑地公園

10/16



笠戸島まつり
国民宿舎大城

5/3

※米泉湖サマージャンボリー・米泉湖音楽フェスタは悪天候のため中止でした。

「きつねの嫁入り行列」その舞台裏

祭りの朝。今年も旧山陽道花岡宿に「きつねの嫁入り行列」が練り歩く。日頃は人通りが少なく、自動車が時折東西に通る静かな町並みに幻想的な雰囲気漂う日である。

くだまつから全国発信できる奇祭稲穂祭「きつねの嫁入り」も本年復活六十周年を迎えた。昔の写真を見ると、田園風景に嫁入り行列の様子があり、新郎新婦が歩いているのである。今も昔も、煌びやかな行列を支えるスタッフは、花岡福德稲荷社奉賛会、周辺の自治会・団体等の方々が中心となっている。

この祭りに関わるスタッフの打合せは、年一回数十分であり、このわずかな時間の打合せが祭りを左右するわけである。つまり、この祭りに対する日常的な意識が高いスタッフによる完全分業制が祭りを支えているのである。たとえほんのわずかな自分の役割であれ、そこに情熱を注いでいるのである。これがまちづくりの原動力であり、そこに祭りの原点があるのではないだろうか。

思いきった
発想とアイデアに資材を
投じて復活した昭和二十五年の「稲穂祭」。これをまちづくりの原点とした地域コミュニティには、これからも必要不可欠な催事なのである。

稲穂祭 (きつねの嫁入り)
法静寺～周防花岡駅



11/3

稲穂祭
「きつねの嫁入り」
進行係
原田幸雄

祝 下松市制施行70周年
 祝 辞
 下松市観光協会 会長 弘中 佑兒
 下松市制施行70周年、誠にありがとうございます。
 昨今の経済不況等により観光を取り巻く環境は厳しい状況となっておりますが、本協会では11月1日に行われました「元気づくり」くだま

つ総踊り2009」をはじめとした多くのイベントを開催しており、市民の方々に楽しんでいただいております。
 今後とも、下松市の観光産業の発展と地域の活性化に向けた取り組みを積極的に推進する所存でありますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。
 皆様方の御健康と御多幸を心から祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

■よさこい参加団体
 流星輝隊 / くだまつ松笑連
 降松星組 / よさこい華連
 ブチクダ華陵連 / 光輝隊
 周防紅華連 / 天神雷舞
 つわの風雅蒼涼 / 周南誠友会
 Team紅 / 真空羽-MAKU-
 岩国 いとも 隊

■総踊り参加団体
 (株)日立製作所笠戸事業所
 東洋鋼板(株)下松工場
 エネルギアグループ(下松発電所)
 (株)山口銀行下松支店
 郷土おどり保存会
 下松市フォークダンス連盟
 来巻神舞保存会
 下松市母子寡婦福祉連合会
 山口県保育協会 下松支部
 下松市連合婦人会
 下松市体育協会
 下松市役所 松朋会

【名称】祝 下松市制施行70周年記念“元気づくり”くだまつ総踊り2009
 【日時】平成21年11月1日(日)12時30分~16時45分
 【場所】中央町 下松タウンセンター(ザ・モール周南)中央広場周辺
 【主催】下松市観光協会“元気づくり”くだまつ総踊り実行委員会
 【後援】下松市、下松市教育委員会、下松市民憲章推進協議会
 【協力】下松タウンセンター連絡協議会
 写真提供 江口 雄司



“元気づくり”



祝 下松市制施行70周年記念
くだまつ 総踊り 2009



総踊り
SOUODORI

YOSAKOI
 よさこい

会 員 介 紹

地球温暖化防止への取り組み

下松商業開発株式会社

ザ・モール周南の星プラザゾーンを管理・運営しているのが下松商業開発です。弊社は、平成十二年から、エコ学習会を企画するなど、様々なエコ活動を展開してきました。そして、本年十月に山口市で開催された「温暖化トメリンピック2009」において、「地域の拠点賞」という特別賞をいただくことができました。

ここでは、地域、テナント会、弊社の三者による、「つながり」を大切にした活動について、その概要を三ポイント紹介します。

一つ目は、地球にやさしい星プラザ独自の商品開発です。容器の缶をリサイクルできる商品やヒラメを調理する際に出る骨を再利用した「骨せんべい」などを開発し、本年二月には、東京ギフトショーへ出店いたしました。

二つ目は、地元企業と連携した環境保護活動の推進です。下松在住の金井さんが描いた絵本「カンクンのたび」をきっかけに、飲料地元企業と共同で、エコをテーマにした紙芝居を作り、環境教育の輪を広げるこ

とができました。

三つ目は、省エネ対策の実行です。これまでもエコバックやエコスタンプなどで省エネを実現させてきましたが、本年、春には、反射板の取り付けにより半分の管球で済む省エネ型の基本照明を、全店舗分、六百六十四セット交換しました。今年七月には星プラザ全体の電気使用量が昨年比八十二%を記録しました。

目標は、年間八百六十トンの二酸化炭素削減です。弊社は、これからも三者の「つながり」を生かし、省エネへの取り組みを強化させていただきます。



よい町」との評価を受けている町だ。



自転車と共に暮らす街

十月にヨーロッパのウイーンへ出かけた。

モーツァルトやベートーヴェンの活躍した音楽の町だ。クリムトの絵や王室の町だ。「世界一住み

なるほど古いお城や宮殿、空を突き刺す塔の教会がドーンと町の中央にあつて、トラム（市内電車）が輪のように町を走り車が少ない町だ。町が小さいこともあって交通の便利さが車からトラムになり、自転車が主流だ。町角に駐輪用のポールが在って、市民はお店の前に気軽に、自転車を置いてケーキやコーヒーを楽しんでいた。古い

民の暮らし方だと思ふ。健康とエ

会 員 介 紹

海を拓く

財団法人 下松市水産振興基金
協会下松市栽培漁業センター
所長 久山裕司

私たち下松市栽培漁業センターは、魚介類の中間育成放流事業（つくり育てる漁業）を主たる目的として、漁業資源の維持回復管理を事業主体に、昭和五十八年漁村緊急整備事業により設立され、今日に至っています。設立当初から、当時としては、まだ全国的にも始まったばかりのひらめの養殖を補完事業として取り組みました。初期のひらめの飼育技術が安定し始めた頃の昭和六十年前半は、全国的に景気の低迷により人員整理等で下松市内も暗い雰囲気になっていました。そこで、下松市観光協会、市内の飲食業協同組合の方々により、ひらめで町おこしという気運の中で、現在の「笠戸ひらめ」が生まれました。笠戸ひらめを広める会が結成され、毎年、東京などへ観光宣伝隊を組み宣伝活動もされてきました。また、市内のマンホールの蓋にもひらめがモチーフに使われたのもこの頃のことです。今では、夏の恒例イベントであるイカダレースのロゴマークにも使われています。

地産地消と言われ始めた昨今でありますが、当初から笠戸ひらめの普及にあたっては、地元発信、地元消費を基本にしてきました。現在では、生産しているほとんどが、下松市内、周南地区で消費されています。当所では、近年、職員一同が力を入れていることがあります。

コと両方を基盤の頑固なこだわりが美味しいケーキを作り、質素な料理を名物として育て、世界一の住み良い町に仕立てているのだ。歴史を大切に、環境を生かして暮らす市民が世界的な偉人を生み育てて居るようだった。

下松は美しい海も美味しい水もある町だ。自転車ロードを整備し、笑顔で美味しいコーヒーとお菓子を楽しむ町作りに市民の関心を求めたい。

それは、今まで、私どもが行ってきた事業を市民のみならず、皆さまに知っていただくための活動が十分でなかったのではないかと感じ始めました。

そこで、行政とも相談しながら、まずは、すぐできることとして放流事業を知ってもらうための放流イベントの開催と、広報活動の機会を確保するためにいろいろなイベントに参加をしています。

そして、来訪された小学生や団体への説明、私どもが学校へ訪問して、地域で行っている栽培漁業の説明会も行っています。地域の子どもたちに、地域で行われている栽培漁業（資源管理型漁業）を知ってもらい、自分の育った街、自分の住んでいる街をもっと好きになってもらいたい、他の街の人に自慢してもらいたいと思っています。

笠戸島のお近くに來られた際は、ぜひ下松市栽培漁業センターにお立ち寄りください。



集 記

イベントは世話をする者にとって、いつもその日の天候に悩まされるものです。

早くから降りはじめればあきらめもつくのですが、曇り空で朝を迎え、その後徐々に暗くなれば最悪です。天気予報がかなり正確になったとはいえ、中止の決断をする事は勇気のいる事です。今年も二、三のイベントが雨の為中止になったようですが、来年はすべて天候に恵まれますよう祈りたいものです。